

在宅看護論 I 講義計画

1. 単位 : 1単位 30時間 (15回)
2. 担当講師(実務経験) : 専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有)・実習指導者(臨床看護師)
3. 学習のねらい : 在宅看護の対象および場を理解し、社会に求められる在宅看護の役割を理解する。
4. 学習目標 : 1) 在宅看護の概念を理解する。
2) 在宅看護の対象について理解できる。
3) 在宅看護の方法について理解できる。
4) 勤労者医療における地域との連携を知る。

5. 講義計画

回数	月日	主題	内容	方法
1		在宅看護の目的と特徴	私の地域自慢!! ・地域の名所、有名人、おいしい食べ物、有名な出来事 ・住民の地域力として誇れるものは何だろうか? 今、地域力を上げる取り組みとしては何が行われているだろうか。	講義 GW 冬季休暇課題①
2		今、自分の地域で行われている在宅の対策を探る。	在宅医療が推進されているわけ。 Keyword : 人口動態・人口構造・世帯構造の推移 税金と医療費の推移位 就労人口と就労者の構成の変化 (人口・性別)	「自分の地域を知ろう!!」 詳細別紙参照
3				
4		「生活者の目線に立つ」 支援のために必要なこと ー生活すること・生活する人の理解ー	「生活者の目線に立つ」とはどういうことか。 生活って何? 何からできてるの? "その人らしさ" とは何だろうか。 "その人らしさ" を保障するために! Keyword : 在宅生活のその人らしさに関わる制度や法律	講義 GW
5				
6		家族の特性	療養者にとって、家族は味方が敵か? 強みと弱み。	講義
7		療養者と関わる家族の特性	Keyword : 家族機能	GW
8		在宅療養の ソーシャルサポート システム	国や自治体は在宅療養をサポートしてくれる? Keyword : 医療保険と介護保、地域包括ケアシステム	
9		在宅療養の ソーシャルサポート システム	地域へ戻る人へのサポートはあるのか。 Keyword : 退院調整・退院支援	
10		訪問看護のマナ	あなたは信頼を得ることができますか? keyword 挨拶、服装、時間、振る舞い、言葉使い、 関わりの姿勢	
11				
12			労働生活って何だろう? 労働者の生活を見る視点を理解しよう。 治療しながら働くことってどれくらい可能なのか。	
13			keyword : 勤労者看護 労働生活 両立支援	
14				
15			試験	

6. 評価方法 : 筆記試験および冬季休暇課題及び講義中の提出物の合計にて評価する。
合計の評価点が6割以上で認定。

7. テキスト : 在宅看護論, 医学書院
国民衛生の動向2018/2019, 厚生統計協会
その他、随時紹介する。

1. 概要：在宅看護論Ⅱ 1単位（15時間） 担当講師(実務経験)：専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)				
2. 学習のねらい：生活者の目線に立った支援を実践するための看護の視点について考える。				
3. 学習目標 1) 生活過程をアセスメントする視点が説明できる。 2) 紙上の事例を用いて在宅における看護過程展開の演習を通して、各段に必要な判断を知る。 3) 在宅療養者とその家族にとってのQOLについて考える。 4) 在宅における療養生活の自立のために看護師ができることを考える。				
4. 講義計画： 講義はグループワークの形式ですすめていきます。 毎回、自己学習が出ますので、グループメンバーに迷惑をかけないように準備しましょう。				
回数	主題	内容	準備と復習（課題）	担当
第1回	在宅において生活を支援する視点とは	テーマ：生活過程とは何か。 ・対象の生活を知るために必要な情報 ・生活を構成している要素および生活過程とは何かを考える ・生活過程を支援するために必要となる情報は何か。 ・病院と在宅のデータベースを比較する。 何が違うのか、なぜ違うのかを考える。	課題1. 「生活者の視点でディスカッションとテキストP112-131	
第2回	看護の成果は何ではかるのか	テーマ：看護は何を目指すのか。 ・看護師の役割とは何か。 ・対象のニーズはどのように確認するのか。 ・自立とはどのような状態を言うのか。 ・自立を判断するにはどうするのか。 ・事例を読み解くために必要な知識は何か	事例配布 課題2. 事例についての学 課題3. 事例のプロフィー ※	
第3回	看護の実践に必要なこと	テーマ：看護師は何をアセスメントしてどこに介入するのか。 対象に期待する自立に対し、「できること」「できないこと」と、介入の方向性を決める 要素について考える。 ・事例に対し、できること・できないこと判断する。	課題4. 事例のデータベースを整理する。	
第4回	看護計画の立案	テーマ：誰が何を支援するのか ・看護師は資源をどのようにマネジメントすればいい ・看護師が請け負う責任は何か。 ・安全な支援を実施するために必要なことは何か。 ・エコマップを作成する。	課題5. 事例の「エコマップ」をも ※ 次回の講義に持参す	
第5回	在宅で看護は何を評価するのか	テーマ：1回の訪問で看護師が評価すること ・「おはよう」の挨拶でわかることは何か。 ・非言語的コミュニケーションが伝えるもの ・生活上の課題を明らかにする。	課題6. 課題4・5を統合し、事例における生活上の課題を判断する。	
第6回	事例から考えた看護計画	テーマ：看護が目指すものを実現する行動とは ・看護計画とその根拠をシェアする。 ・グループ毎の生活上の課題の捉え方の違いから、看護計画を踏まえ初回訪問の計画を考えてみる。考え ※考え方だけで計画書は作成しない。	課題7. 話し合いをもとに、事例に対する初回訪問の計画を立案する。	
第7回	筆記試験	課題1～課題7を持参する。 「課題でまとめた内容を根拠に、療養者の目線に立った看護実践とは」について自分の意見を試験時間内に記載する。 1～7の課題と当日の記述を合わせて提出し、評価を受ける。		
第8回	在宅訪問活動の実際	1. 訪問看護における看護記録と評価の実際 2. 在宅における終末期ケアの実際	講義を受けて学べたこと（レポート）	

5. 評価

- ・筆記試験（90点）
- ・講義の振り返り用紙を提出。
- ・課題8（10点）

合計で100点満点中6割以上の得点で認定。

在宅看護論Ⅲ 講義計画

1. 単位： 1単位
2. 担当講師(実務経験)：専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有)・実習指導者(臨床看護師)
3. 対象学生：
4. 学習のねらい：訪問看護ステーションの活動の実際を学び、在宅看護への理解と興味を深める。
5. 学習目標 1) 地域で療養する人と家族を支える訪問看護制度と訪問看護活動について理解する。 2) 地域で療養する人と家族を支援するための職種間連携とその中での看護師の役割について考え 3) 地域における「人生の最終段階における医療」と看護活動について理解する。
6. 講義計画

回数	月日	主題	内容	備考	担当
1		訪問看護サービスの意義	訪問看護ステーションの必要性 (ディスカッション)	課題1. レポート「私の在宅療養計画書」詳細は別紙。 復習課題	
2		地域包括ケアシステムとは	療養者の生活を地域で支援するとは (ディスカッション)	事前課題 ・国民衛生の動向 ↳地域包括ケアについて	
3		訪問看護ステーションを利用するには	あなたの街で訪問看護サービスを利用する (ディスカッション)	事前課題 医療保険と介護保険による訪問看護サービスの利用	
4		在宅における多職種連携	テーマ：チームにおいて看護師は何 (ディスカッション)	事前課題 在宅医療に関連する法律と制度	
5		人生の最終段階における医療①	在宅死とは何か (ディスカッション)	事前課題	
6		ーその人らしいエンドステージのためにー	テーマ：亡くなった人と見送った家族のためにできる事は何か (ディスカッション)	課題2. レポート(別紙)	
7		人生の最終段階にある人に対する退院調整と生活支援	1. 終末期にある患者の退院支援の実際 2. 在宅における緩和ケアの実際 退院支援から在宅療養支援へ 就労継続に向けた在宅療養支援	事前学習 課題2についての意見交換を終えて、「在宅終末期医療について今考えること」 レポート	

7. 予習・復習課題

毎時間、ラーンで予習・復習のための基礎知識や講義内容に関する練習問題を配信します。
 問題は国家試験方式で配信します。
 それぞれ受験期間は、前回講義時～次回講義前日までです。
 満点になるまで繰り返しチャレンジしましょう。

8. 評価について

課題1～3、および筆記試験の得点の合計で60点以上により合格とし、単位を認定する。
 評価基準：提出物の内容、提出状況、予習・復習問題の取り組み状況、などにより評価する。
 各課題は、試験と同等の取り扱いとなる。勝手な提出の遅延は認められない。
 したがって、未提出・提出遅延の場合、その課題についての評価は0点となる。

9. テキスト

- ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院
- ・国民衛生の動向 2018/2019
- ・在宅看護論Ⅰ講義資料

在宅看護論Ⅳ 講義計画

1. 単位 : 1単位 30時間 (15回、試験)
2. 担当講師(実務経験) : 専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有)・実習指導者(臨床看護師)
3. 学習のねらい : 療養者と家族の人生の質を高めるために、在宅の場に応じた基礎的看護技術について学ぶ
4. 学習目標 : 1) 在宅において環境を整える意味について理解する。
2) 在宅で医療処置をうけながら生活する療養者への看護支援について理解する。
3) 勤労者看護の実践として特徴的な看護の視点を理解する。

5. 講義計画

回 月日	主題	内容	準備と復習(課題)	担当
第1回 第2回	在宅における自立した生活に向けてのリハビリテーション	1. 生活習慣とリハビリテーション 2. リハビリテーション援助技術(寝返り・起き上がり・椅子からの立ち上がり・床からの立ち上がり・歩行介助)	演習できる服装で！ クリップボード	
第3回	在宅看護技術の特徴とリスクマネジメント	1. 在宅における看護技術の特徴は何か。 2. 在宅でのリスクは何か。 ①実習の振り返り ②在宅における事件事例 ③リスク回避方法	課題1. 在宅におけるリスクマネジメントについての自分の考えをまとめる。	
第4回	在宅で行う日常生活援助	胃瘻がある在宅療養者の入浴介助の方法 工夫と手順	<事前課題> ・入浴が身体に及ぼす影響を調べる。(循環動態への影響) ・胃瘻とは	
第5回	在宅で行う日常生活援助	入浴介助の方法に関する検討	入浴介助についての手順書を準備する。	
第6回 第7回	住環境と福祉用具	名古屋市「なごや福祉用具プラザ」施設見学	課題2(※詳細別紙) 福祉用具プラザレポート	
第8回	在宅看護における看護師の役割①	事例学習 在宅中心静脈栄養法をうけるAさんへの看護支援		
第9回	在宅看護における看護師の役割①	事例学習 在宅酸素療法を受けるBさんへの支援看護		
第10回	在宅看護における看護師の役割①	事例学習 在宅人工呼吸療法を受けるCさんへの支援看護		
第11回	在宅看護における看護師の役割②	事例学習 マネジメント技術(機器の管理・身体の管理)		
第12回	在宅看護における看護師の役割③	事例学習 活用できる社会資源。		
第13回	在宅看護における看護師の役割④	事例学習 状態悪化時の対策		
第14回	勤労者への支援を考える。	事例をもとに、勤労者に必要な支援を考える。		
第15回	試験			

科 目： 看護管理
担当講師(実務経験)：看護師(中部労災病院看護部長)
学習のねらい：看護研究の基礎を学び、看護専門職に求められる役割と責任を学ぶ。
時 間：30時間 1単位

単元看護研究		
回数	主題	内容
1	看護研究の意義	1.看護研究の意義 2.看護専門職と研究 3.看護研究における倫理 4.看護研究に関連する用語
2・3	看護研究の種類と特徴	.研究課題に応じた研究方法とデータ収集法を学び、研究を看護に応用する方法がわかる。(その1) 1.研究課題のタイプ 1)因子分析探索研究 2)関係探索研究 3)関連検証研究 4)因果仮説検証研究 2.データ収集法 1)観察法 2)質問紙法 3)面接法 4)実験的方法
4	研究課題とデータ収集方法	研究課題に応じた研究方法とデータ収集法を学び、研究を看護に応用する方法がわかる。(その2) 1.事例研究 2.文献検索の必要性 3.研究過程と文献の方法 研究成果を活用するための評価の仕方を理解する。 (クリティークの目的と方法) 事例研究(ケーススタディ)の取り組みの方法について 夏季休暇の課題
5・6	看護研究の実際	学会参加
7・8	看護研究の実際	ケーススタディ発表会

単元 看護管理

回数	主題	内容
1・2	看護管理 使命と組織管理	労災病院使命「勤労者医療推進」への取り組み
3・4	チームの作り方	看護師のチームワークとコミュニケーション 業務遂行のためのマネジメント
5・6	看護管理の実際	看護職マネジメントの実際
7	国際看護	看護師による海外の活躍 日本にいる在留外国人への看護
1. 看護研究：筆記試験		30%
クリティークレポート		10%
ケーススタディ		10%
2. 看護管理：筆記試験		50%

【講義科目】 医療安全
【ねらい】 医療安全対策の基本的な考え方と実際を理解し医療従事者として果たすべき責任について学ぶ。
【目標】 1) 医療安全の基本的考え方がわかる。 2) 医療安全への具体的取り組みがわかる。 3) ヒューマンエラー対策が理解できる。 4) 看護業務における医療事故の実際を理解できる。 5) 危険を予測し対策を考えることができる。 6) 事例分析方法がわかる。 7) 医療安全における感染管理対策がわかる。
【担当講師・時間】 看護師(中部労災病院医療安全管理者) 15時間 試験(1回)
【対象】 名

回	日時	内容	備考
1		医療安全ってなんだろう ①医療安全の基本的考え方 ②医療安全への具体的取り組み	テキスト 医療安全と看護の理念 医療安全への取り組みと医療の質の評価 看護学生の実習と安全
2		人はいつでも間違える ヒューマンエラーについて	テキスト 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 患者・家族との協同と安全文化の醸成
3		そのひとつが・・・ コミュニケーションエラーと ノンテクニカルスキル リスク感性を高めよう①	テキスト 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策
4		リスク感性を高めよう②	テキスト 看護における医療事故と安全対策
5		リスク感性を高めよう③	テキスト 看護における医療事故と安全対策
6		アクシデント発生！その時あなたは・・・!?	テキスト 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 医療事故後の対応
7		感染管理	
8		試験	筆記試験 100点 (テストには感染の内容も含む)

【使用テキスト】

ナーシング・グラフィカ 医療安全 看護の統合と実践②
その他必要に応じて講義で配布します。

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間
【看護の統合と実践】 災害看護	看護師(救急看護認定看護師) 専任教員(災害看護実務経験有)	1単位	20時間 (9回 講義・試験) 6時間 (3回 講義) 4時間 (2回 演習)

ねらい：災害看護に必要な基礎的知識と技術を学び、災害時における看護師の役割を理解する。

学習目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する
2. 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備えや地域防災を理解する
3. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する
4. 災害時の看護師の役割と災害サイクルにおける看護支援活動を理解する
5. 災害時に必要な看護技術を体験的に理解する

回数	日時	主題	学習内容	方法	担当	
1		災害および災害看護の基礎知識	災害・災害看護とは 災害の種類・特徴 災害サイクルと災害医療・看護の歴史	講義		
2		災害発生時における社会の対応やしきみ 個人の備え	災害医療に関する国の政策と法規 ※課題：災害時非常袋の作成・報告について	講義GW		
3		災害サイクル別の看護支援活動① 急性期・亜急性期	災害が人々の健康と生活に与える影響	講義 GW		
4			病院における災害時の医療と看護活動	講義 GW		
5			救護所における看護支援活動	講義 GW		
6			被災者特性に応じた看護支援活動	講義 GW		
7			国際看護学①②	別紙参照		
8						
9		災害サイクル別の看護支援活動② 慢性期・復興期	仮設住宅における看護支援活動	講義		
10			被災者特性に応じた看護支援活動 災害と心のケア (被災者・救援者)	GW 講義 GW		
11		災害時に必要な看護技術①	考えよう！ 院内での患者誘導・患者搬送	GW		
12		国際看護学③	別紙参照	講義		
13		災害時に必要な看護技術②	実践してみよう！ トリアージ・搬送・応急処置 ※服装：トレーニングウェア	演習		
14						
15			試験			

評価方法	筆記試験 90点 課題10点
使用テキスト	ナシダケラフカ 看護の統合と実践 災害看護 MC/デイヤ出版
参考文献	・黒田裕子監修：新版 災害看護 人間の生命と生活を守る MC/デイヤ出版 ・系統看護学講座 統合分野看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院 その他、資料など配付します

看護技術の統合

1. 単位：1単位（30時間）・担当講師(実務経験)：専任教員(臨床実務経験有)

2. 科目のねらいと目標

リアリティある事例や臨床場面で事故に繋がりやすい場面を通して、患者の安全を守り、看護者としての判断や技術の統合ができるための実践について学ぶ。

目標1) 入社1年目の臨床現場を想定し、日勤帯のメンバー役割における看護行動計画立案方法を理解する。

目標2) 臨地で遭遇する問題状況を捉え、看護実践に必要な判断と行動を学ぶ。

目標3) 既習の知識・技術を統合し、対象の個性性を踏まえた看護実践方法について学ぶ。

3. 講義計画

回数	日時	主題	目標	内容	方法
1		「看護技術の統合」の意義	科目全体の計画と進め方が理解できる	1. 科目と総合実習との関連 2. 全体像および学習内容・方法 3. 事例紹介 (A氏・B氏)	講義
2		複数患者受持ち時の行動計画の立案	受持ち患者の全体像を把握し、受持ち時の状態を理解できる	1. 日勤帯におけるメンバーの役割を考える 2. 事例の関連図作成を通して、受持ち時の看護上の問題を予測し、看護計画を立案する (1つ)	個人ワーク
3				事例 (濱田氏 須田氏)	個人ワーク・GW
9週間の課題					
①事例患者 (A氏・B氏) の関連図作成					
②事例患者 (A氏・B氏) の受持ち時に考えられる看護上の問題 (看護診断) の判断					
③事例患者 (A氏・B氏) の受持ち時の看護計画の立案					
④A氏・B氏受持ち時の1日の行動計画 (総合実習：実習計画・実践記録) の記述 課題①～④提出					
4・5		臨地で遭遇する問題状況と看護	事例を通して、問題状況における看護師の思考プロセスと行動について理解できる	1. 異常徴候の見られる患者の看護を考える 事例 (福田氏)	GW
6・7		Part1			発表
8・9		複数患者受持ち時の行動計画の立案	行動計画の発表・実践を通して複数患者受持ち時の計画立案方法が理解できる	3. 立案した複数患者受持ち時の1日の看護行動スケジュールの発表 4. スケジュールに基づいた実践と全体討議	発表
10・11		既習の知識・技術を統合した臨床実践能力評価(OSCE)	臨床看護実践能力評価(OSCE)により設定された看護技術(到達度I・II)の現状を知る	1. 指定された課題について一人ずつ看護実践し、他者評価を受ける。 事例 (天海氏)	技術試験
12・13		臨地で遭遇する問題状況と看護 Part2	事例を通して、問題状況における看護師の思考プロセスと行動について理解できる	1. 輸液管理時の緊急時対応を考える	GW 講義
14		臨床看護実践能力(OSCE)の振り返り	OSCE結果を振り返り、自己の課題を明確にできる	1. 記録された看護実践場面(OSCE)の自己評価 2. 臨床看護実践に必要な知識・技術・態度に対する自己の課題の明確化	DVD視聴
15		試験			

4. 評価 課題①～④ (計30点) OSCE 10点 筆記試験 60点

5. 使用テキスト 固定したものではありません。

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
在宅看護論実習	専任教員 (在宅看護領域臨床実務経験有)	2	90時間 (7.5H×12日間)

実習目的：地域で療養を継続する人と家族の社会生活の維持に向けた看護実践から、「生活者」の視点に立った看護支援の在り方を学ぶ。

学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自宅で療養する人と家族と関わり、生活の在り方と健康の関連について考える。 2) 通院する患者の治療の継続に影響する生活因子について考える。 3) 対象の生活環境に応じた看護(専門職、家族、その他インフォーマルな資源による)の実際から療養者や家族が持つヘルスケア昨日の強みと課題への看護師の判断と行動を考える。 4) 患者の治療の継続に向けた外来で看護師が行う判断の行動の実際を知る。 5) 地域での支えあい、病院を含めたケアサポートシステムとして保健・医療・福祉の連携の実際を知る。 6) 地域医療における看護活動の特徴と機能について体験からまとめる。 7) 病院における入退院視線の自裁から、通院する勤労者の就労と治療の両立のための看護師の判断と行動について考える。 8) 実習における学習のマネジメントができる。 		
	主 題	学 習 内 容	方 法
訪問看護ステーション	1. 生活者としての在宅療養者とその家族の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者および家族の身体状況、心理・精神的状況、人間関係・社会的役割、経済的状況、住環境などと生活上の自立や健康との関連 <ul style="list-style-type: none"> ・療養環境と生活の関連 ・身体機能と生活の関連 ・家族関係とセルフケア能力 ・療養者や家族の生活史、生活信条、価値観 ・療養者と家族成員の役割とライフサイクルにおける課題 ・社会資源活用状況と生活の関連 ・療養者や家族の生活上の課題(問題) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
	2. 在宅療養者とその家族のQOLを高めるための看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者及び家族の価値観や意思を尊重した援助のあり方 2) 療養者及び家族のセルフケアのための支援 3) 生活条件に適した援助 4) 訪問看護の目的と、援助の実際 	
	3. 在宅療養者とその家族を支えるための社会資源の活用・調整	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会資源を活用している人のニーズ 2) フォーマルとインフォーマルな資源 3) 在宅療養を支える職種と協働の実際 4) 地域住民の介護予防・セルフケア活動における看護師の役割 	
	4. 在宅看護の特徴と役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護過程の特徴 2) 在宅看護に求められるもの 3) ケースレポートの作成 	
外来で通院治療中の地域で暮らす患者の看護	1) 外来患者の生活状況と治療継続に影響する要因	<ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の通院治療・自己管理についてのアセスメント(受診動機、受診目的、現在に至るまでの経過・必要な治療や看護・健康問題への対処方法・家庭での生活状況・職場、学校環境・担当患者及び家族が現在気になること・担当患者及び家族が医療に期待していること) 2) 在宅療養にむけて入院時に調整されたサポートと療養者の抱える課題 	
	2) セルフケアを支援する外来看護師の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 外来における看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・診療の補助 ・患者、家族への治療・検査の説明 ・患者、家族への生活指導 ・病棟や他職種との連絡調整 2) 専門外来における看護師の役割 3) 就労者の治療継続に向けての支援 	
	3) 地域連携における看護師の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域連携における外来看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・初診(地域からの紹介)患者に対する治療やケアの継続のための関わり ・生活をサポートするための地域のサービス提供者(ケアマネ、訪問看護師・介護福祉士など)との連携 2) 地域連携、退院調整に関わる看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師間の連携 ・多職種との連携 3) 継続看護のための連携 <ul style="list-style-type: none"> ・外来看護師、退院調整看護師、病棟看護師間における連携 	
評価：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
総合実習	専任教員(臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間 (8H×9日間+4H×2日間)

実習目的：保健・医療・福祉チームの一員として、組織の目的を達成するために看護が果たす役割・機能について実践的に学ぶ。

学習 目標	1. 組織目的達成のための病院および病棟の役割と機能について理解する。 2. 看護チームの一員として複数患者を受け持ち、対象に必要な看護が実践できる。		
主 題	学 習 内 容		方 法
組織管理の実際 (組織使命と病院部門の目的達成の役割機能)	1) 組織の目的と役割 2) 地域における労災病院の役割 3) 労働者健康安全機構における労災病院の役割 4) 病院組織の構成部門とその役割 5) 組織の機能 6) リーダーシップおよびメンバーシップ ・病棟の目標と機能 ・病棟管理の実際と役割 ・チーム活動を円滑にするための活動の実際 ・他職種との連携と協働		1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. チーム運営の実際を見学する。 4. 複数受け持ちを決定し、病棟メンバーの一員として看護実践に参加する。 5. ミーティングに参加する。 6. 学習のまとめを実施する。
看護チームの一員として複数患者を受け持ち、対象に必要な看護	1) 複数患者の援助の実施 ①複数患者の看護過程 ②組織理念とのつながり ③チームの一員としての看護実践と評価 2) チーム連携に必要なコミュニケーション 3) 他職種(医師・薬剤師・理学療法士・MSWなど)の役割と具体的な実践		
出席と規定の課題提出をもって評価する。			